

第3学年1組 国語科学習指導案

平成26年6月27日(金) 第5校時
場 所 3年1組 教室
授業者 教諭 金子 裕美江
在籍児童数 男子19名 女子20名 計39名

- 1 単元名 読んで、考えたことを発表しよう
教材名 「海をかつとばせ」

2 本単元の意図

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直で、さまざまなことに前向きに取り組もうとする。3年生になって加わった新しい教科の学習や生活環境にも慣れてきている。人前で発表したり自分の考えを文章に表したりすることを苦手とする児童もいるが、これまでの学習の積み重ねを通し、自分の思いや考えを表現すること自体には慣れてきた。

「読むこと」については、読書を好む児童が多く、ちょっとした時間にも読書に進んで取り組んでいる。児童は、2年生の学習で登場人物と自分の経験とを比べて読むことを経験してきた。前回の物語「きつつきの商売」では、登場人物や場面の様子の読み取りをもとに、読み方を工夫して音読発表会を行った。しっかりと内容を読み取ることで、音読の工夫に幅が出ることに気づき、グループで役割分担をして楽しく音読することができた。その後の説明文「ありの行列」の学習では、テーマに沿った感想文を書く活動を通して、同じ文章を読み取っても一人ひとりの感じ方や注目する点が異なることに気づき、その面白さを知ることができた。

本単元でも、物語の読み取りを通して、場面の様子を想像しながら読むことや登場人物に着目して読むことの楽しさを味わってほしい。そして、友達一人ひとりの感じ方を知ること、同じ物語でも感じ方、考えに違いが生じることに気づいてもらいたい。

(2) 育成する言語能力

本単元で育てたい能力は、「C 読むこと」の「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」と「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気づくこと。」である。そこで、「物語を登場人物と自分とを比べながら読み取り、人物に対する自分の考えを根拠となる叙述を明らかにして発表し合う」という言語活動を設定する。

物語「海をかつとばせ」を、主人公の気持ちを詳しく読み取り、主人公の人となりがよく出ていところを探し、その人物像を明らかにしていく。そして、主人公に対する自分の考えを児童同士で発表し合う。主人公が等身大の人物である物語であるから、児童も感想や考えをもちやすく、その根拠もさまざまになるであろう。話型を示してそれをういながら、叙述に即し、根拠を明確にして自分の考えを示す表現力を身につけさせたい。

(3) 教材観

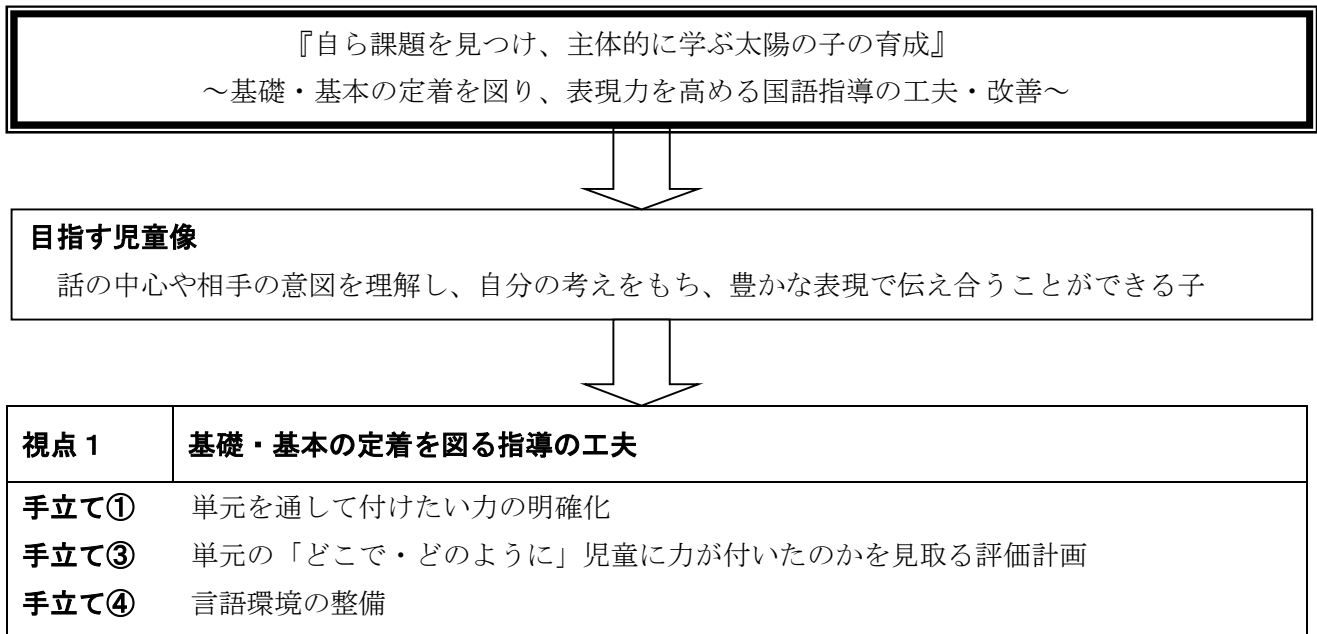
本単元では、人物の行動や気持ちを中心に叙述を基にして想像を広げながら読み、人物と自分を比べて人物について考えたことを発表し合う活動をする。根拠となる叙述を明らかにして感想や意見を発表し合う活動は、今後、さまざまな状況でも求められる言語活動である。“なんとなく”といった漠然とした感想や思いつきの意見ではなく、そう思った根拠(わけ)を明確にするためにも、叙述を正確にとらえる力が必要となる。

「海をかつとばせ」は等身大の少年が主人公の物語である。野球を題材に、元気いっぱいの少年が描かれたこの物語は、自分と重ねながら読むことがしやすい作品であろう。新しいことに取り組んだり、何かに一生懸命になったりした経験を思い出しながら読ませていきたい。

3 単元の目標

- (1) 叙述をもとに物語を想像して読み、登場人物と自分を比較したりして感じたことを発表しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。(読むこと)
- (3) 文章を読んで感じたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気づくことができる。(読むこと)
- (4) 様子を表す言葉を見つけ、それらの言葉を使って短文を作ることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 研究内容との関連



- ・付けたい力を学習指導要領「C 読むこと」ウ、オとし、それに合わせた言語活動を設定する。
- ・指導案の中に評価計画をきちんと明記し、それに合わせて評価、指導の改善を行う。
- ・物語の人物の人となり表現するのに必要な語彙を教室に掲示し、朝の会でのスピーチなどで意識して使わせる。

視点 2	児童一人ひとりが思いや考えをもつための指導方法の工夫
手立て①	意欲を高める魅力的なゴールと学習計画の設定
手立て②	モデル学習の効果的な活用
手立て③	児童一人ひとりが自分の生活経験と結び付ける活動の設定

- ・児童とともに学習計画を立て、単元全体の見通しをもち、学習の流れを確認しながら学習を進める。
- ・学習のゴールのモデルを提示し、毎時間そのモデルを意識して学習活動をする。
- ・物語を人物に着目して読み、自分の生活経験を思い出しながら登場人物と自分を比べる活動をする。学習後には、日々の読書活動においても、自分と登場人物を比べながら読むことができるようにしていく。

視点 3	伝え合う力を付けるための指導方法の工夫
手立て①	目的意識、相手意識をもち、考えを伝え合う活動や機会の充実

- ・登場人物と自分とを比べて考えたことを、毎回、グループで伝え合う。さらに、感想を交流する。
- ・グループでの伝え合いや感想交流をもとに、全体でも伝え合って考え方の相違に気づき、その面白さを感じる。

視点 4	学校生活全体における言語環境の整備
手立て②	読書活動の推進
手立て④	言語環境の整備

- ・単元の学習に合わせて並行読書を行いやすいように、環境を整える。
- ・単元で用いる「人柄を表す言葉」を教室に掲示し、児童とともに語彙を増やしていく。

5 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての 知識・理解・技能
<p>『海をかつとばせ』を人物と自分を比べながら読み取り、人物紹介とともに、人物に対する自分の考えや感想を根拠となる叙述を明らかにして発表し合うという言語活動」を通じた指導</p> <p>・学習指導要領との関連</p> <p>「C 読むこと」の言語活動例 ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと</p>		
①登場人物と自分を比べながら読もうとしている。	①登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句に着目し、関連付けて読んでいる。 ②読み取ったことをもとに、登場人物の人柄について考えている。 ③考えたり想像したりした理由を、叙述をもとに説明している。 ④「わたしだったら」「ぼくだったら」などの観点で	①文章から様子を表す言葉を見つけ、それらの言葉を使って短文を作っている。

	表現し、お互いに違いがあることに気づいている。	
--	-------------------------	--

6 指導と評価の計画（全8時間扱い）

次	時	主な学習活動	学習内容	学習活動に即した評価規準と評価方法
第一次	1	<p>○本単元のねらいと活動について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>同じくらいの子どもが出てくる物語を読んで、人物ぞうや人物について考えたことを、理由を明らかにしながら発表し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人物について考えたことを「人物カード」にまとめ、友だちと発表し合うことを知る。 ・学習計画を立てる。 ・お話「海をかつとばせ」の範読を聞く。 ・感想を書き、発表する。 <p>※並行読書を開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「海をかつとばせ」を通して学習する内容 ・根拠となる叙述を明らかにして自分の考えを伝える文型 <ul style="list-style-type: none"> ①自分とにているところ わたしは、「人物」とにているところがあります。それは、～～～というところです。 ②自分とちがうところ 「人物」は、わたしとはちがうと思いました。それは、～～～というところです。 ③自分が考える「人物」ぞう 「人物」は、〇〇〇な人だと思います。なぜなら～～～からです。自分だったら、・・・と思います。 ・学習の見通し ・初発の感想の発表 	<p>登場人物と自分を比べながら物語を読もうとしている。</p> <p>ア - ① (観察・学習感想)</p>

第二次	2	<p>○お話を読み、ワタルの行動などから、ワタルがどんな人物か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成（現実→不思議な体験→現実）をおさえる。 ・ワタルの行動から人物像を読み取る。 ・ワタルと自分とを比べて考えたことを発表する。 ・読み取った人物像をカードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容（人物の行動・気持ちや人物像、情景）の読み取り ・登場人物と自分を比較した読み ・根拠を明らかにした説明、発表 ・「人物カード」の作成 	<p>登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句に着目し、関連付けて読んでいます。</p> <p>エー①（発言・教科書の線引き） 読み取ったことをもとに、登場人物の人柄について考えている。</p> <p>エー②（発言・人物カード） 考えたり想像したりした理由を、叙述をもとに説明している。</p> <p>エー③（観察・発言）</p>
	3・4・5（本時）	<p>○お話を読み、ワタルの行動や気持ちを読み取って考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像や行動・会話、周りの様子からワタルの気持ちの変化を読み取る。 ・ワタルと自分とを比べて考えたことを発表し合い、カードにまとめる。 <p>ア) 自分と似ているところ イ) 自分と違うところ ウ) 自分が考える人物像</p>		
	6	<p>○「人物カード」を発表し合い、感想を交流する。</p> <p>○本文中の様子を表す言葉を書き出し、それらを使って短い文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにした表現 ・感想・意見のもち方の違いへの気付き ・様子を表す言葉 	<p>「わたしだったら」「ほくだったら」などの観点で表現し、お互いに違いがあることに気づいている。</p> <p>エー④（発言・感想）</p> <p>文章から様子を表す言葉を見つけ、それらの言葉を使って短文を作っている。</p> <p>オー①（観察・ノート）</p>

第三次	7・8	<p>○選んだ本の登場人物と自分を比べて考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んできた本の中から気に入った登場人物を選び、自分と比べて考えたことをまとめる。 ・まとめたことを発表し合い、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容（人物の行動・気持ちや人物像、情景）の読み取り ・登場人物と自分を比較した読み ・「人物カード」の作成 ・根拠を明らかにした説明、発表 	<p>登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句に着目し、関連付けて読んでいる。</p> <p>エー①（観察・人物カード） 読み取ったことをもとに、登場人物の人柄について考えている。</p> <p>エー②（観察・人物カード） 考えたり想像したりした理由を、叙述をもとに説明している。</p> <p>エー③（人物カード） 「わたしだったら」「ぼくだったら」などの観点で表現し、お互いに違いがあることに気づいている。</p> <p>エー④（発言・学習感想）</p>
-----	-----	---	---	--


7 本時の学習指導（5／8時）

（1）本時の目標


○ワタルの行動や男の子との会話、周りの様子などの叙述から想像を広げて、ワタルの気持ちの変化や人柄を読み取ることができる。 （読むこと）

○読み取ったことをもとに、ワタルの人柄について考えることができる。 （読むこと）

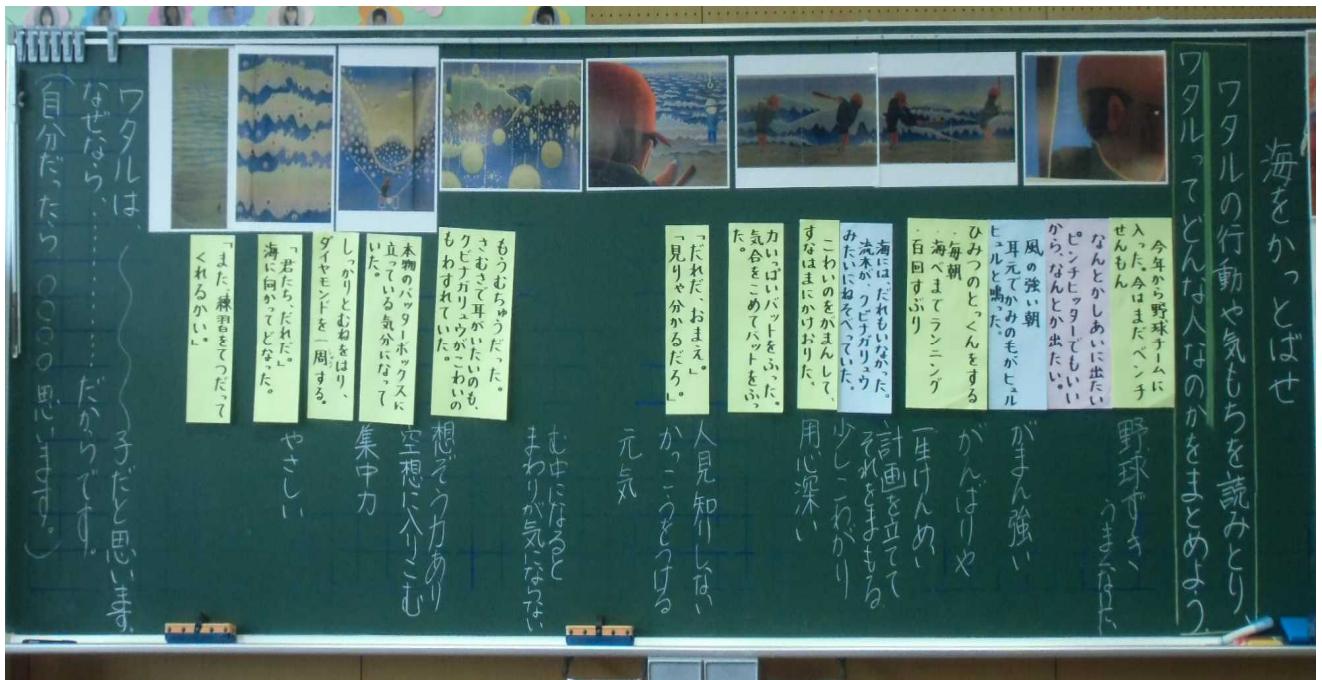
（2）展開の実際

学習活動	学習内容	指導・支援（○）と評価（◇）の創意工夫	時間
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワタルの様子や気持ちを读みとって、ワタルについて人物カードにまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方の確認 	<p>○前時までの活動を振り返り、同じように読み進めて、人物像をカードにまとめることを確認する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習計画表と学習モデルを示しながら、本時の学習の流れを確認する。</p> </div>	2

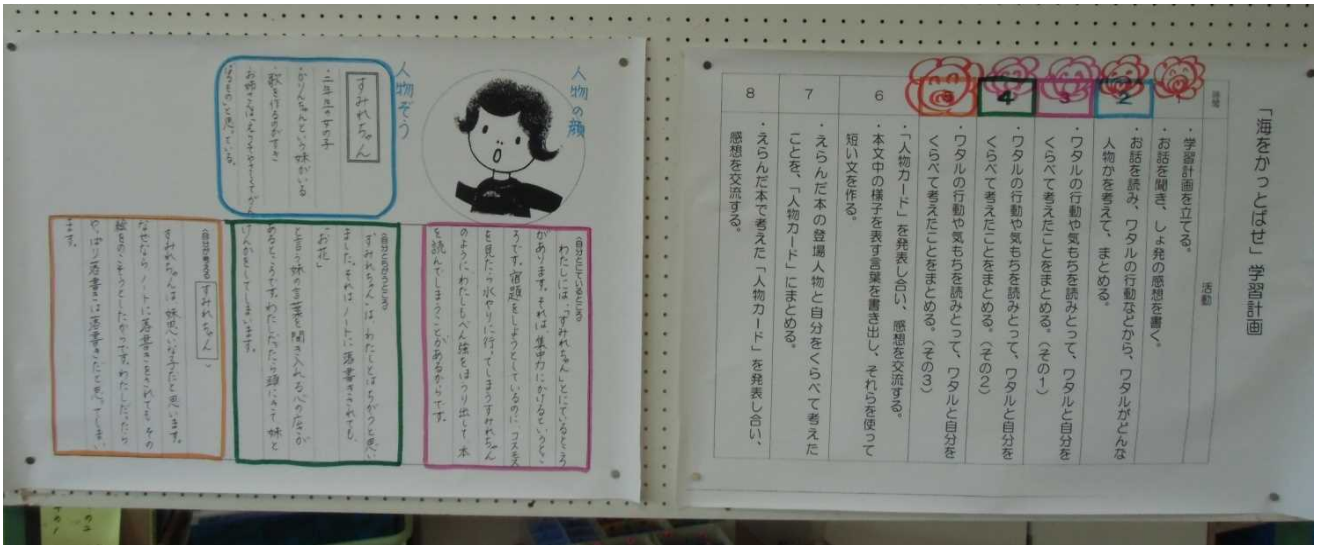
<p>2 行動や気持ちがわかるどころに着目しながら全文を読み、ワタルの気持ちや人柄、人物像を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容（人物の行動や気持ち、人物像）の読み取り ・叙述を基にした考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習を思い起こし、ワタルの状況、気持ちの変化を確認させる。 ○様子の表す言葉から、場面の様子を想像させる。 ○ワタルの行動・会話や周りの様子から、人物像を考えさせる。 ◇ワタルの行動や周りの様子などの叙述から想像を広げて、ワタルの気持ちの変化や人柄を読み取っている。 <p>【観察・教科書の線引き】</p>	<p>10</p>	
		<p>気合いを入れて、力いっぱい練習して、がんばりやだな。</p>	<p>全文読みを繰り返すことで、児童の読みに深まりが出た。3回目の本時は、スムーズに線を引ける児童が多くなった。</p>	
<p>3 読み取ったことを発表し合い、考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組 ・全体 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる叙述を明らかにした伝え方 ・人物像の読み取り 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達が読み取ったことを交流し合い、ワタルの人物像を明らかにしていく。 ○叙述を基にした説明の型を意識させて発表させる。 ○最初は3人組で交流し、一人ひとりが自分の考えを伝えられるようにする。 ○人物像を明らかにするため、グループの交流を視覚化させる。 ◇読み取ったことを基に、ワタルの人柄や気持ちについて考えている。 <p>【観察・発言】</p>	<p>22</p>	
		<p>ワタルって、自分で計画を立ててがんばる子だと思うよ。</p>	<p>そうだね。自分で決めて、きちんとやっているのはすごいよね。</p>	
 <p>ワタルは、人見知りをしない子だと思います。なぜなら、男の子にいろいろ話しかけているからです。</p>			<p>それぞれが意見をもって話し合いに臨むので、意見交流が活発になった。マニュアルがない分、自由な話し合いができていた。</p>	
<p>「だれだ、おまえ。」なんて、かっこつけているみたいだよ。</p>				

<p>4 “自分が考えるワタル像”の観点で、人物カードにまとめる。</p>  <p>グループ・全体での交流を通して、ワタル像がはっきりしたため、ワークシートにスムーズに書くことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人物像の読み取り ・叙述を基にした説明 ・登場人物と自分との比較 	<p>○友だちの考えや話し合いをもとに、改めてワタルの人物像を考えさせる。</p> <p>○叙述を意識しながら、人物像をまとめさせる。</p> <p>○書く際に、「自分も～」「自分だったら～」など自分の考えや判断を入れるようにさせる。</p> <p>◇読み取ったことを基に、ワタルの人物像をまとめている。</p> <p style="text-align: right;">【人物カード】</p>
<p>5 本時の振り返りをし、次時の活動について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り ・次時の学習内容 	<p>○本時の自己評価をして学習感想を書かせる。書けた児童数人に感想を発表させる。</p> <p>○次時は、出来上がった「人物カード」を発表し合うことを伝える。</p>

(3) 板書の実際



(4) 掲示物 (学習計画表、学習モデル)



8 実践のまとめ

(1) 児童のワークシート・感想

- ワタルは、好きなことに一生けんめいになれる子だと思います。なぜなら、ひみつのとつくんをやるからです。自分だったら、3日くらいでやめてしまうかもしれません。
- ワタルは、む中になるとまわりが気にならなくなる子だと思います。なぜなら、耳がいたいのも、クビナガリュウがこわいのもわすれていたからです。そこまでむ中になれるのは、すごいと思います。
- ワタルは、野球ずきな子なんだと思います。なぜなら、なんとかしあいにいたいとひみつのとつくんをしたからです。ぼくはサッカーが好きだけど、朝早くにれんしゅうはしないで、休み時間とかにしたいと思います。
- 人物カードがかんせいしてよかったです。つぎに発表するのが楽しみです。

(2) 授業について

- ワークシート (人物カード) の形を工夫し、人物の顔を児童が描き入れることによって、学習に対する意欲を増すことができた。
- 登場人物と自分とを比べながらの読み取りを視点を変えて3回行った。モデルと話型を用意してあったため、児童は学習活動にスムーズに取り組めた。ワークシートが毎時間埋まっていくことで、達成感も味わっていた。
- 板書に、前時までに児童が着目した叙述を提示したことで、更に読みを深めることができた児童もいた。自分の考えの理由づけに成長がみられた。
- 3人組での話し合いが活発に行えた。自分の考えをまとめられなかった児童も、友達と意見を交流することで自分の思いを明確にすることができた。話し合いの内容を焦点化するために、急遽ホワイトボードを使ってまとめさせた。児童にとって目新しかったようだが、必要なかった。



9 成果と課題

視点 2	児童一人ひとりが思いや考えをもつための指導方法の工夫
手立て①	意欲を高める魅力的なゴールと学習計画の設定
手立て②	モデル学習の効果的な活用
手立て③	児童一人ひとりが自分の生活経験と結び付ける活動の設定

- 学習が進むのと同時に自分のワークシート（人物カード）が完成していく、ということが目に見えてもわかる学習計画は、児童の意欲だけでなく学びに対する達成感も高めることができた。
- 授業の始めと終わりにモデルを確認することで、本時で何を学ぶのか、児童に活動の見通しをもたせることができた。
- 児童が選んだ本で人物カードを作成して交流した際、人物を自分と比べるだけでなく、友達と人物を比べたり読み取りの違いを楽しんだりして話が盛り上がっていた。再度、本を読み直す児童もいた。場を設定することで、児童の活動や思考に広がりをもたせられた。

視点 3	伝え合う力を付けるための指導方法の工夫
手立て①	目的意識、相手意識をもち、考えを伝え合う活動や機会の充実

- 3人組で伝え合うことで、自分の考えをきちんと話す時間が確保できた。また、友達の考えとの相違に気づき、その面白さを感じることができた。
- 自分の考えの理由を叙述に基づきながら伝える中、共感されたり納得してもらったりすることで積極的に交流することができた。
- うまく文章にまとめられない児童でも伝え合いに参加して友達と交流する中で、自分の考えを明確にすることができた。今後も伝え合う活動を充実させ、児童の学びや思考を深めていきたい。

10 指導講評

- 並行読書が用意されていた。同じ年ごろの主人公と自分を重ねて読ませるための本を選んである。モデル学習も、主人公と自分を重ねられるすみれちゃん（2年生の国語教材の主人公）の物語が選ばれていた。
- 全文読みは、日常の読書に寄せながら読ませるという意図がある。つけたい力を焦点化して読ませていくことが必要である。今回は、人物について考えることに絞られていた。
- 人物カードが学習の成果となるように作られていた。掲示物も学習計画と人物カードがリンクされ、色分けされていた。3ステップにして、物語の読み方が示されていた。
- 話し合いの型がなくても活発な交流ができていた。一人が発言した後、次につなぐ言葉を用いて話し合いが進んでいた。一人読みでは線が引けない児童も話し合うことで学習に意欲的になっていた。マニュアルに縛られると意見交換が進まないこともある。日頃から意見交流の機会を作っていくことで、マニュアルがなくても話し合いができるようになる。児童がカード交流を楽しみにしている様子が見られた。